

「メルボルン派遣参加報告書」

京都大学文学研究科1年 山森真衣子

七月下旬より約三ヶ月間、オーストラリアのメルボルン大学で Greg Restall 教授のもと、論理学を中心に勉学に勤しんだ。本派遣についての報告を、(1) 学習成果、(2) 海外での経験、(3) プログラム内容、(4) 進路への影響について、の四点から記す。

(1) 学習成果

● 留学への意欲について

本派遣によって、外国で学ぶことの重要性を再認識し、長期留学に対する意欲が増した。

国の内外を問わず、普段とは異なる環境で勉強をすることによって新しい刺激を受ける。その環境が普段と異なるほど、その刺激は大きくなる。よって、外国という環境は非常に大きく様々な刺激を与えてくれる場である。

また、日本とは異なるカリキュラムを採用しており、専門科目が細分化されている。よって、自分の学びたいものをピンポイントで深く勉強することができる。

● 大学での学習について

上述したように、本派遣によって様々な刺激を受け、また論理学について深く勉強することができた。これらによって、自分の行いたい研究の像が明確になった。

● 国際理解への意欲について

自分は国際理解ができていなかったということに気付くことができたことが一番の収穫である。

SEND 活動としてメルボルン大学の豊田教授の日本語授業にアシスタントとして参加させていただいたこともあり、現地の学生と(論理学や哲学以外でも)様々なトピックについて話し合った。自分のアイデンティティから世界情勢まで、オーストラリアに来ている様々な国の学生がどのように考えているのかについて触れる切掛けとなった。そして、物事を考える際の枠組みがそもそも異なっている場合が多々あると感じた。

(2) 海外での経験

オーストラリアは多民族国家であり、アジア系の住民も多かった。アジアンフードも非常に豊富で、日本人にとっても非常に住みやすい街であろう。しかし嗜好品を中心に、物価は日本よりかなり高いように感じられた。

移民が多いため癖の強い英語を話す人もそれなりに多いが、その分こちらの癖のある英語も根気よく聞いてくれる人が多い。

(3) プログラム内容

● 論理学:

論理学の授業(水曜日)と、そのチュートリアル(木曜日)

論理学のセミナー(金曜日)

● 日本語授業アシスタント(SEND活動):

会話中心の日本語授業2コマ(木曜日)

(4) 進路への影響

(1)でも述べたように、自分の行いたい研究が明確になった。また、長期の海外留学に対して、より積極的になれた。